

## トピックス

世界のブックデザイン2024-25印博にて開催	2
梓会出版文化賞・新聞社学芸文化賞決定	2
2026年1月下請法は取直法へ名称変更	2
造本装幀コンクール受賞者インタビュー	3

一般社団法人日本書籍出版協会

## 2025年 『出版再販・流通白書』発行

(一社)日本書籍出版協会、(一社)日本雑誌協会、(一社)日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会の出版4団体で組織する出版流通改善協議会(小野寺優委員長)は、『2025年出版再販・流通白書 No.28』(A4判・112頁・ISBN 978-4-89003-168-9、価格1,430円税込)を12月22日に刊行する。

当協議会では毎年、その年の再販・流通改善についてまとめ、発行している。今年の特集は、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」、文化通信社・星野渉氏による「『書店活性化プラン』発表とその行方」、日本書店商業組合連合会による「再販契約書ヒナ型改定の概要について」、日本出版取次協会による「出版配送へのトラック新法影響」をはじめ、書店在庫の横断検索システム、JPO、ABSC、フランス出版文化政策視察についての報告などについても掲載した。

好評につき、『再販契約の手引き 第8版』を、今年も白書の末尾に収録(『再販契約の手引き』は書協HPからもダウンロードできる)。

発行部数は1,800部で、各団体会員、消費者、図書館等の関係団体、公正取引委員会、など関係官庁に配布する。

以下は『流通白書No.28』の概要(予定)。

### 1. 特集

- ・街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟について(出版文化産業振興財団=JPIC)
- ・「書店活性化プラン」発表とその行方(文化通信社・星野渉)
- ・書店活性化プラン(令和7年6月10日)
- ・書店活性化へ向けた共同提言(読売新聞グループ本社・講談社)
- ・再販契約書ヒナ型改定の概要について(日本書店商業組合連合会)

・出版配送へのトラック新法影響(日本出版取次協会)

・書店在庫情報プロジェクト、拡大フェーズへ(JPIC)

・雑誌JANの運用変更とJPRO活用のお勧め(JPO)

・読書困難者の読書環境を整備し、出版者のアクセシビリティへの取り組みを支援するABSC(ABSC)

・フランス出版文化政策視察についての報告(JPIC)

・海賊版と戦う最大の武器、それは「数字」(ABJ)

・能登の置き本(日本出版クラブ震災対策室)

### 2. 業界で取組む弾力運用

(1) 出版社共同企画「謝恩価格本フェア」

(2) 神保町ブックフェスティバル

(3) 上野の森 親子ブックフェスタ2025

### 3. 各者の流通改善・弾力運用

・出版業界からの著作物再販ヒアリング議事概要

・再販売価格維持契約書ヒナ型一部改定について(出版再販研究委員会)

・「雑誌作成上の留意事項」改訂について

(1) 出版社の取組み(21社)

①再販制度の弾力運用

②時限再販・部分再販

③流通改善の取組み

(2) 取次の取組み(6社+日本出版取次協会)

(3) 書店の取組み

①日本書店商業組合連合会

②「BOOK MEETS NEXT 2025」年間を通して開催

③書店大商談会 & BOOK EXPO 2025

④各地のご当地書店大賞&大商談会

### 4. 出版統計

①出版物の販売金額(電子書籍含む)

②書店数の状況・無書店地域の概要

### 5. 資料編

・出版物再販問題略年表

・再販契約の手引き 第8版

(問合せ 日本書籍出版協会 TEL 03-6273-7061)

## 世界のブックデザイン2024-25 印刷博物館にて開催

印刷博物館（東京・文京区）は、12月13日（土）から明年3月22日（日）まで、P&Pギャラリーにて「世界のブックデザイン2024-25」を開催する。

今年2月に選ばれたドイツ・ライプツィヒの「世界で最も美しい本2025コンクール」の受賞作品や日本の「第58回 造本装幀コンクール」（主催：日本書籍出版協会、日本印刷産業連合会）の受賞作品をはじめ、ドイツ、カナダ、オランダ、中国、そして、ポーランドとポルトガルのコンクール受賞図書約180点の書籍が展示される。また展示にあわせ、トークショーなどのイベントも開催予定。

会場：印刷博物館 P&Pギャラリー（文京区水道1-3-3）  
会期：12月13日（土）～2026年3月22日（日）

開館時間：午前10時～午後6時（月曜休館） 無料

詳細：<https://www.printing-museum.org/collection/exhibition/q20251213.php>  
(問合せ 印刷博物館 TEL 03-5840-2300)

## 第41回梓会出版文化賞 第22回新聞社学芸文化賞決定

優れた書籍を長年にわたり発行している出版社を顕彰する第41回「梓会出版文化賞」と第22回「出版梓会新聞社学芸文化賞」が決定した。

第41回「梓会出版文化賞」に輝いたのはエトセトラブックス。「同 特別賞」は太田出版が受賞。また第22回「出版梓会 新聞社学芸文化賞」はクオン、「同 特別賞」には皓星社が選ばれた。今年は76社から応募があり、各賞の選考会を経て上記4社の受賞が決定した。

梓会出版文化賞受賞のエトセトラブックスは、2018年設立の従業員2名の出版社。フェミニスト出版社として年に2回、雑誌『エトセトラ』を刊行している。ヴァージニア・ウルフ著『月曜か火曜』をはじめ『翻訳する女たち』、『部落フェミニズム』、『砂の境界』など、フェミニズムに係わる書籍を編み出している。

新聞社学芸文化賞受賞のクオンは、2007年の設立から韓

国文学を日本に届けてきた出版社。ジャンルも多彩な書籍は、韓流と呼ばれる文化を支え、大きな役割を果たしてきた。

なお、贈呈式は1月21日（水）17時半から如水会館で行われる。

(詳細問合せ 出版梓会 TEL 03-3292-2323)

## 2026年1月施行！ 下請法は取適法へ名称変更

明年1月から、下請法（下請代金支払遅延等防止法）の名称が、「中小受託取引適正化法（取適法）」に変わる。

（正式には「製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律」）

用語も、下請法の「下請事業者」は、取適法では「中小受託事業者」に、下請法の「親事業者」は、取適法では「委託事業者」に、それぞれ変更となる。

下請法では、発注の際に取引内容を明示することが義務付けられていた書面（3条書面）も、取適法では、「4条書面」となる（書面等の交付義務において、承諾の有無にかかわらず、電磁的方法による提供を認容している）。

また、取適法では従来の下請法適用対象の資本金要件に加え、新たに、従業員の人数基準が新設された。たとえば、情報成果物作成委託（プログラムを除く）・役務提供委託（運送・倉庫管理・情報処理を除く）取引では、資本金に関係なく、常時使用する従業員100人超の委託事業者から、常時使用する従業員100人以下（個人を含む）の中小受託事業者への取引発注も取適法の対象となる（製造委託等や新設の特定運送委託では、300人超の委託事業者から、300人以下の中小受託事業者への発注が対象）。

対象取引において、代金に関する協議に応じないことや、協議において必要な説明又は情報の提供をしないことによる、一方的な代金の額の決定を禁止している。

概要・詳細は、公正取引委員会のウェブサイト等を参照

- ・公取委 [取適法特設ページ](#)
- ・[取適法ポイントリーフレット（委託事業者向け）](#)
- ・[取適法ガイドブック](#)
- ・[中小受託取引適正化法（取適法）関係](#)

第58回造本装幀コンクール受賞記念

読書推進運動協議会賞『シャーロック・ホームズの護身術 バリツ』



## 「読む体験をデザインする」

— 装幀家・松田行正さんが語る『シャーロック・ホームズの護身術 バリツ』の世界

話し手：グラフィックデザイナー 松田行正

聞き手：平凡社 編集者・吉田真美

(2025年10月9日／誠品生活日本橋トークイベントより)

2025年10月9日に誠品生活日本橋・誠品書店にて行われた第58回造本装幀コンクール受賞者・松田行正さんによるトークイベントの模様をインタビュー形式で紹介する。

### ■ ブックデザインとは「本という環境を設計すること」

(吉田) まずは、ブックデザイナーとはどんな仕事なのかを教えてください。

(松田) 一般的には「カバーや帯をデザインする人」というイメージかもしれません、実際はもっと広いんです。表紙、見返し、扉、本文の組版、用紙の選定、書体、さらには判型や製本方法まで、本全体の“構造”を設計します。つまり、ブックデザイナーとは「本という環境」をデザインする人です。

### ■ 『バリツ』装幀—英国紳士の品格と遊び心

(吉田) 今回の『バリツ』のデザインでは、どんな方向性を意識されたのですか？

(松田) まず、英国文化をどう表現するか。「英国紳士の品格と静かなユーモア」をテーマにしました。“バリツ”はホームズが作中で語る謎の格闘術で、19世紀末に流行した英国式護身術“バーティツ”がモデルという説があります。つまり背景にはビクトリア朝の美意識がある。そして、ビクトリア朝のイギリスでは、イスラム装飾が流行り、本の装飾の枠にも取り入れられていました。今回の扉や飾り罫は、そのイスラム文様をもとにデザインしています。ヨーロッパの美と無意識に取り入れていた異文化の美——こうした文化の交差点にある美を視覚的に表現しました。

### ■ 判型とページ構成——“紳士的な軽やかさ”的演出

(吉田) 『バリツ』は四六判よりやや小ぶりですよね。あのサイズ感にはどんな意図が？

(松田) 文量がそれほど多くない中で、書店で“薄く見えすぎ

ない”厚みを出すためです。

横幅をほんの数ミリ切ることで手に収まりのよい厚みになり、読者が自然にページをめぐれるようにしました。

(吉田) なるほど。本の「開きやすさ」もデザインの一部なんですね。

(松田) ええ。開きやすさ、読みやすさで言えば、たとえば、縦組みの本では特に、行末がノド<sup>\*1</sup>に入り込みすぎると読みにくい。ノドの余白をどのくらい取るか、小口<sup>\*2</sup>の空き具合をどう調整するか。それだけで読みやすさがまったく変わります。ページをめくるときの手の動きまでを想像して設計しています。

商業出版では価格との兼ね合いもあるので、見た目の厚みと手にしたときの軽さ、その両立が重要で、造本の段階でそこを設計しています。

(吉田) 手にすると軽いのに、書店ではしっかり存在感がありますね。



(松田) 重量も重要です。重い本は読者にストレスを与えます。“どこでも読める軽さ”は、いまの時代の上質さでもあると思います。

\*1ノド：本の綴じ目に添った部分

\*2小口：本のじ目以外の三方の切り口

### ■ 紙と印刷——「触れるデザイン」の時代へ

(吉田) 今回、用紙選びも工夫されたと伺いました。

(松田) はい。カバーはヴァンヌーボ系の上質紙で、特色の金を重ねています。さらに帯を含めてスミと特色金の2色にすることで、派手さを抑えながら上品に仕上げました。読者が手に取った瞬間の“手触り”と“軽さ”が印象に残るようにしています。

今は本の時代の変わり目だと思います。紙の“手触り”を重視する方向に戻ってきています。80年代まではツルツルしたコート紙が高級とされました。今は纖維の風合いが見える上質紙が好まれる。

電子書籍では得られない“触覚の情報”をデザインする時代です。本は見るものではなく、手で“感じる”ものです。

その触感が記憶に残る——それが本づくりの醍醐味です。

### ■ タイトルデザイン——「にじみ」が生む温度

(吉田) タイトルの書体が独特ですよね。少しにじみがあるような。

(松田) はい。「にじみ明朝」という書体を使っています。小さな活字を拡大したときの“インクのにじみ”を再現したような文字で、活版印刷の時代の温かみが出ています。古典的な題材に現代的な印刷を重ねることで、“時間の層”を感じさせ、作品の舞台である19世紀イギリスの空気感にも合うと思いました。

(吉田) 欧文タイトルを入れたことで全体が締まりましたよね。

(松田) 欧文タイトルを入れたのは、全体にリズムを与えるためです。

カタカナは画数が少なくて均一なのでバランスが難しいですが、欧文があると視線の重心が取れるんです。

### ■ 書体の哲学——“読むデザイン”的基本

(吉田) 松田さんが普段よく使う書体はありますか？

(松田) 基本は「筑紫オールド明朝」<sup>\*3</sup>と「A1ゴシック」<sup>\*4</sup>です。まずこの2種類で組み、そこから雰囲気に合わせて調整します。昔の写植時代の文字は角が少し“甘い”でしょう？ そのわずかな丸みが人間らしくて、僕は好きなんです。デジタル技術の進歩のおかげで、その“甘さ”を再現できるものが増えました。

(吉田) デザインの背景に書体史まで踏まえた視点があるのが、まさに松田さんらしいです。

(松田) 読書において、書体は“声”的なもの。

デザイン的に派手でも、読みにくければ意味がありません。どんなに時代が進んでも、読みやすい書体が一番です。

\*3 筑紫オールド明朝：活字、写植時代の本質を踏襲し考慮した書体。活字のようなインクの溜まりのある独特な雰囲気を持っている。

\*4 A1ゴシック：墨だまりという、アウトラインが溶けてにじんだような独特の処理を施して写植の温もりを感じさせるのが特徴。

### ■ カバー制作——“キャッチボール”の中で生まれる最適解

(吉田) 松田さんはいつも多くのラフを出していただきます。拝見するのは、編集者にとっても楽しい時間です。

(松田) 昔から「たくさん出して選んでもらう」のが好きなんです（笑）。編集者と意見を交わす中で新しい視点が生まれる。ブックデザインはアートではなく“キャッチボール”です。編集者からの「もう少し日本語タイトルを大きく」などの要望も、デザインの一部として楽しんでいます。

(吉田) 松田さんは大ベテランですが、いつも柔軟に対応してくださいますよね。

(松田) 柔軟でないデザイナーは無理ですよ（笑）。見る人が変われば最適解も変わる。だから僕は“臨機応変”が信条です。



### ■ 「形にならないもの」を形にする

(松田) 僕は“形にならないもの”に惹かれるんです。たとえば「余白」や「ゼロ」、宇宙のように広がるもの。

本というのは、そうした“見えないもの”を物質化するメディアです。ページの白、文字の間、紙の手触り——すべてが読者の中で世界を拡張していく。それがブックデザインの魅力だと思っています。

### ■ 終わりに——“読む体験”をデザインするということ

本づくりの裏側には、紙質や小口、帯、書体といった細部に至るまでの膨大な判断の積み重ねがある。

そのひとつひとつが「読みやすさ」や「品のよさ」という感覚に結晶する。

『シャーロック・ホームズの護身術 バリツ』は、英国文化への敬意と遊び心が絶妙に融合した、まさに“紙の本という作品”だ。

※本インタビューの全文は、以下の造本装帧コンクールオフィシャルホームページでもご覧いただけます。

<https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-list58.html#58-20>

## 出版統計

書籍	10月期	前年同月比	1~10月期	前年同期比	書籍出回り	10月期	前年同期比	1~10月期	前年同期比
新刊点数	5,877点	3.8	52,951点	▲ 2.8	推定出回部数	5,225万冊	▲ 1.8	54,813万冊	▲ 4.7
新刊推定発行部数	2,113万冊	▲ 0.8	18,596万冊	▲ 5.8	推定出回金額	701億円	▲ 0.1	7,356億円	▲ 2.2
新刊平均価格	1,361円	3.3	1,365円	2.9	推定出回平均価格	1,342円	1.8	1,342円	2.6
新刊推定発行金額	288億円	2.6	2,538億円	▲ 3.1	実売部数	10月期	前年同期比	1~10月期	前年同期比
月刊誌	10月期	前年同月比	1~10月期	前年同期比	書籍	3,396万冊	7.4	35,678万冊	▲ 2.6
発行銘柄数	1,581点	▲ 4.4	2,183点	▲ 2.8	月刊誌	3,367万冊	▲ 5.9	32,876万冊	▲ 11.3
推定発行部数	6,110万冊	▲ 6.9	58,106万冊	▲ 10.2	週刊誌	945万冊	▲ 22.4	9,789万冊	▲ 19.1
平均価格	798円	3.0	803円	3.7	実売金額	10月期	前年同期比	1~10月期	前年同期比
推定発行金額	488億円	▲ 4.1	4,666億円	▲ 6.8	書籍	476億円	9.1	4,981億円	▲ 0.1
週刊誌	10月期	前年同月比	1~10月期	前年同期比	月刊誌	267億円	▲ 3.1	2,611億円	▲ 8.2
発行銘柄数	66点	▲ 4.3	75点	▲ 2.6	週刊誌	43億円	▲ 20.8	435億円	▲ 17.2
推定発行部数	2,113万冊	▲ 11.2	20,586万冊	▲ 11.4	実売金額合計	786億円	2.6	8,027億円	▲ 3.9
平均価格	476円	3.0	463円	3.3					
推定発行金額	101億円	▲ 8.5	952億円	▲ 8.5					

●銘柄数 月刊誌は1ヶ月、週刊誌は1週間平均の発行銘柄数

●部数 配本されたと推定される部数。書籍出回り部数は新刊・重版の流通総量を表したもの。

●平均価格 部数を加味した加重平均価格(税抜)

●金額 発行部数・出回り部数を価格で換算した金額

[ 提供 出版科学研究所 (TEL03-3269-1379) ]

### EVENT INFORMATION

#### ■造本装幀コンクール販売・展示フェア

場所：広島T-SITE・広島蔦屋書店

期間：11月19日（水）～12月18日（木）

内容：今年の受賞作の一部を販売、他の受賞作はパネルにて展示

#### ■出版関係新年名刺交換会

日時：2026年1月7日（水）12:00～14:00

（受付11:30～）

会場：出版クラブビル3F・4F

内容：日本出版クラブ維持員社・出版関連協力団体による新年名刺交換会。

2025年も日本出版維持員社・出版関連協力団体のみとし、事前申込みが必須（取材の方でも当日申込みは不可）

（問合せ 日本出版クラブ Tel 03-5577-1771）

### 編集後記

今回、造本装幀コンクールの受賞者・グラフィックデザイナー 松田行正氏のインタビュー記事を掲載しました。大ベテランである松田氏はデザインの奥深さ、楽しさ、難しさを、おだやかに時に少年のような笑顔で語ってくださいました。時代が変わって、仕事の手段が変わっても、仕事への姿勢・興味はいつでも変わらない（でも柔軟に臨機応変に）そんな姿に心打たれました。（あ）

一般社団法人 日本書籍出版協会

発行人：樋口清一

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

TEL : 03-6273-7061

FAX: 03-6811-0959

Webサイトもご覧ください

<https://www.jbpa.or.jp>